

CASBEE-建築(新築)2014年版
東陵小学校・中学校

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.40		0.60	3.28
1 音環境		2.2	0.15			2.2
1.1 騒音		3.0	0.40			
1.2 遮音		2.0	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		2.7	0.35			2.7
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.60			
2 外皮性能		3.0	0.40			
3 ゾーン別制御性						
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式		2.0	0.30			
3 光・視環境		3.3	0.25			3.3
3.1 星光利用		3.0	0.30			
1 星光率		3.0	0.60			
2 方位別開口						
3 星光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策	授業に支障のないように庇を深くする。 カーテン、庇を組み合わせて制御。	4.0	0.30			
1 星光制御		4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気質環境		4.4	0.25			4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を使用し、VOC検査を実施する。	5.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						
2 喫煙の制御	建物用途上全体禁煙としている。	5.0	1.00			
Q2 サービス性			0.30		0.60	3.28
1 機能性		3.5	0.40			3.5
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40			
1 広さ・収納性						
2 高度情報通信設備対応						
3 バリアフリー計画	移動等円滑化基準に適合した計画とする。	4.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30			
1 広さ感・景観		3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画		3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	竣工後の維持管理の点から材料を選定し、設計内容を決定。	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震		3.0	0.50			
1 耐震性		3.0	0.80			
2 免震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数	Fc=24N(標準)	3.0	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		4.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			

2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性		3.3	0.30	-	3.3
3.1 空間のゆとり		4.0	0.30	-	-
1 階高のゆとり	各教室への設備配管等を考慮し、階高(3.85m以上)を設定。 壁長さ比率=約0.24	4.0	0.60	-	-
2 空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-
Q3 暑さが環境(敷地内)		4.0	0.50	0	2.4
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	府内産木材使用、周辺の豊かな緑を取り込む開放空間を設ける。	4.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性					3.1
LR1 エネルギー		4.0	0.40	0	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	外壁屋内側に断熱材を使用、窓は複層ガラスとする。BPI _m =0.88	4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	2.0
3 設備システムの高効率化	BEL 非住宅 0.85	4.0	0.50	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)	各設備機器の仕様方法を考慮してシステムを設定する。	4.0	1.00	-	-
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-
4 効率的運用		2.5	0.20	-	2.5
集合住宅以外の評価		2.5	1.00	-	-
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制		2.0	0.50	-	-
集合住宅の評価		-	-	-	-
4.1 モニタリング		-	-	-	-
4.2 運用管理体制		-	-	-	-
LR2 資源(マテリアル)		4.0	0.30	0	2.9
1 水資源確保		3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水	利用状況に合わせた制御機能等を設けた機器を使用する。	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-
2 再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	施工・解体手間がかからない材料を用いてリサイクルを容易にする。	4.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	竣工後に使用することもにも影響のないように材料を選定。	5.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-
1 消火剤		-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3 冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境		4.0	0.30	0	2.7
1 地球温暖化への配慮	部分使用・時間帯別の利用を考慮し、効率的な設備配置とする。	3.2	0.33	-	3.2
2 地域環境への配慮		2.1	0.33	-	2.1
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制		1.6	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 交通負荷抑制		1.0	0.33	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮		2.9	0.33	-	2.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-
1 騒音		3.0	0.33	-	-
2 振動		3.0	0.33	-	-
3 悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		2.8	0.40	-	-
1 風害の抑制		3.0	0.60	-	-
2 砂塵の抑制		2.0	0.20	-	-
3 日照阻害の抑制		3.0	0.20	-	-
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-